

# 作業者目線の音声ガイド付き作業手順書への改版

秘

期限：2031年期末日 以降は社内用

小田原工場

## 作業内容・注意点を分かりやすく記載

- ▶ 人に委ねる部分を少なくし、また教育内容が人によってバラツキがないように、**作業者目線**に内容を変更（改版）！  
強調（注意）する部分はテンプレートを用いて記載

緑テンプレート：過去災害事例

黄色テンプレート：安全上の注意事項

赤字・・・注意点記載

- ▶ データベース・紙ベースで保管、いつでも・誰でも確認できる環境
- ▶ **音声ガイド付き**でいつでも説明を聞く事ができる
- ▶ 全233件保有 全て改版！！

社内用 1. 保護具の取り扱い (6/27)

◆保護手袋◆

手や足に火傷、熱傷、切削等皮膚障害を起こすおそれのある作業や、感電するおそれのある作業等に着用。  
(H1-12-137 保護具着用基準より)

・配合G内では主に切削防止手袋を使用 (①-1)

①手袋を着用する。  
\* 手首周りが伸びているなど、劣化がある物は使用しない事。  
\* ①-2手袋は、機械修理等の作業の時、特化保護具を着用すること。  
\* ①-3手袋は、ローラーの刃洗浄時、直接刃を触る為切削レベルが5の手袋を着用。  
又、100℃までの耐熱仕様も備わっている為、配合槽洗浄作業時にも着用。

◎材質◎  
①-1切削防止手袋  
表裏：ケブラー  
①-2切削防止手袋  
表裏部：ニトリウム  
裏部：ナイロン、ポリウレタン、ア  
ブド、ステンレススチール  
①-3切削防止手袋  
裏表：竹レーヨン、ダイニール（R）、  
ガラス、ポリアミド

保護具  
画像

保護具  
画像

保護具  
画像

①-1切削防止手袋（配合G共通） ①-2切削防止手袋（設備改善1） ①-3切削防止・耐熱手袋（ホイットメイク）

2. 剤型別原料投入手順 (1/24)

◆原料投入時の保護具について◆

①切削防止の手袋を着用する。  
\* 手首周りが伸びているなど、劣化がある物は使用しない事。

②上記の上に、ゴム手袋を着用する。  
\* 汚れや、破れが発生した際は、速やかに新しい物に交換する事。  
\* 破れ、破片が発生した際はしっかりと現物を確認する事。（混入がない事を確認する事）

③保護メガネを着用する。  
\* 劣化したものは速やかに交換し、使用しない事。  
\* 汚れが付着していると、視界が悪くなり危険な為、きれいな状態で使用する事。

①②については、原料投入に限らず作業時は常に着用する。





(過) 2. 剤型別原料投入手順 (8/24)

◆重量 (20kg以上) ジャッキ原料・リフター台車使用手順◆






①原料をリフター台車に乗せる。  
\* 原料の重量によっては二人で載せ替えること。

⚠ 20kg以下であっても重たいと感じたら組み作業またはリフター台車を使用する事

②投入する槽の前までリフター台車を動かしてストッパーをかけて必要な高さまで上昇させる。  
\* ストッパーを必ずかける事。  
\* 床が汚れている場合はストッパーをかけても台車が動かない様に注意する事  
\* 槽の負担にならない程度の高さまで調節する事。  
\* 20kg以上の場合は組み作業で投入する事

③投入後、ジャッキ内のカトリドを実施する。  
\* ジャッキ内壁面および底面をしっかりとカトリド事。  
\* 特に、小型機台はわずかなミスが物性に大きく影響するため、カトリドに注意する事。  
\* 粘性のある原料について、投入時に予備槽壁面に原料が付着した際はカトリドを行う事。

予備槽内壁に原料が付着した状態で配合を行い、主剤異常の事例あり

作業者の不安解消！！